

2025年度
賢明学院高等学校
入学試験

2025. 2. 10実施

国 語
(50 分)

- ・答えはすべて解答用紙に記入すること。
- ・字数制限があるすべての設問において、句読点など文章記号は字数にふくめます。
- ・問題文は、設問の都合上、一部省略・表記を改めたところがあります。
- ・問題用紙・解答用紙ともに受験番号を記入すること。

受 験 番 号

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

スマホへの漠とした不安の正体は何なのか。この問いについて考える前に、A、皆さんに質問をしたいと思います。

① 日常的におしゃべりする友だちは何人くらいいますか？

② 年賀状やSNS、メールで年始の挨拶を発信しようと思うとき、リストに頼らず、頭に浮かぶ人は何人くらいいますか？

いかがでしょう。ぼくが今まで学生などに聞いた限り、①は10人くらい、②は100人くらいまで、というのが標準的な答えです。これは、おそらく全国どこでも同じだと思います。【一】

ぼくが、なぜこのような質問をしたかというと、今、「自分がつながっている人」の数と、「実際に信頼関係でつながることができる人」や「信頼をもつてつながることができる人」の数の間にギャップが生まれているのではないかと、B、このギャップの大きさが、現代に生きる人たち、特に生まれたときからデジタルに囲まれた世界に生きる若者たちの不安につながっているのではないかと、そう思うからです。

人間は、進化の歴史を通じて、一貫して付き合う仲間の数を増やしてきました。これは、人間の祖先が熱帯雨林からサバンナという危険な場所に進出したことが関係しています。長い歴史のある時点において、おそらく地球規模の寒冷・カンソウ化が起こり、それによって熱帯雨林が分断され、そこで暮らしていた動物たちはサバンナに出て行くか、森が残る山に登るか、低地に散在する熱帯雨林に残るかを選択を迫られたのでしょう。結果的に人間は熱帯雨林を出ました。【二】

そこで、いくつかの「トクチョウ」を発達させたのです。その一つが③集団の大きさです。危険な場所では、集団の規模は大きいほうが有利です。数が多いれば、一人が狙われる確率は低くなるし、防衛力も増します。危険を察知する目がたくさんあれば、敵の発見効率も高まります。実際、森林ゾウとサバンナゾウでは、サバンナゾウのほうが、身体も大きく、集団規模も大きい。人間も、危険から自分の命、そして仲間の命を守るために、集団の規模を大きくしなければならなかったのです。

ただし、集団を大きくすると、食物や安全な休息場所をめぐってトラブルが増えます。仲間の性質や、自分との関係をきちんと頭に入れておかないとうまく対処できなくなります。そのためには脳を大きくする必要がありますがありました。皆さんの中には、人間の間には、人間の脳は、言葉を使い始めたことで大きくなったと思っている人がいるかもしれませんが、人間が言葉を話し始めたのは7万年ほど前にすぎません。一方で、脳が大きくなり始めたのは、それよりずっと以前の約200万年前に遡ります。言葉を使ったから脳が大きくなったのではないのです。

人間の脳の大きさには、実は集団規模が関係しています。チンパンジーとの共通祖先から分かれた約700万年前から長らくの間、人間の脳は小さいままでした。この頃の集団サイズは10〜20人くらいと推定されています。これは、ゴリラの平均的な集団サイズと同じ。言葉ではなく、身体との同調だけで、まるで一つの生き物のように動ける集団の大きさといえます。サッカーが11人、ラグビーが15人など、スポーツのチームを考えるとかかりやすいでしょう。これは、皆さんが、互いに信頼し合っておしゃべりをする友だちの数④に当たります。【三】

その後、人間の脳は急速に発達します。今から約60万〜40万年前には、ゴリラの3倍程度の1400ccに達し、現代人の脳の大きさになりました。そして、この大きさの脳に見合った集団のサイズが、100〜150人。これが⑤に当たる数です。【四】

これは、ロビン・ダンバーというイギリスの人類学者が、人間以外の霊長類の脳の大きさと、その種の平均的な集団サイズの相関関係から導き出した仮説に基づく数字です。ダンバーは、平均的な集団サイズが大きければ大きいほど、脳に占める大脳新皮質、つまり知覚、思考、記憶を司る部分の割合が大きいことを明らかにしました。

そして、現代人の脳の大きさに見合った集団の人数を示す、この「150」という数字は、実に面白い数字であることがわかりました。文化人類学者の間で「マジックナンバー」といわれているのはそのためです。

食料生産、つまり農耕牧畜を始める前まで、人間は、この150人くらいの規模の集団で狩猟採集生活を送っていました。天の恵みである自然の食物を探しながら移動生活をする人々には、土地に執着したり、多くの物を個人で所有したりといったことがありません。限られた食料をみんなで分け合い、平等な関係を保って協力し合いながら移動生活を送るためには、150人が限度なのでしょう。そして、現代でも、このような食料生産をしない狩猟採集民の暮らしをしている村の平均サイズが、実に150人程度なのです。

C、150人というのは、昔も今も、人間が安定的な関係を保てる人数の上限だということです。皆さんの生活でいえば、一緒に何かを経験し、Dを共にした記憶でつながっている人ということになるでしょうか。ぼくにとっては、年賀状を出そうと思ったとき、リストを見ずに思いつく人の数がちょうどこのくらいです。互いに顔がわかって、自分がトラブルを抱えたときに、疑いもなく力になってくれると自分が思っている人の数ともいえます。

今、ぼくたちを取り巻く環境はものすごいスピードで変化しています。人類はこれまで、農耕牧畜を始めた約1万2000年前の農業革命、18世紀の産業革命、そして現代の情報革命と、大きな文明の転換点を経験してきました。そして、その「カンカク」はどんどん短くなっています。農業革命から産業革命までは1年以上の年月があったのに、次の情報革命まではわずか数百年。この⑥四半世紀の変化の激しさを考えれば、次の革命まではほんの数十年かもしれない。その中心にあるのがICT (Information and Communication Technology 情報通信技術) です。インターネットでつながるようになった人間の数は、狩猟採集民だった時代からは想像もできないくらい膨大になりました。

一方で、人間の脳は大きくなっていません。つまり、インターネットを通じてつながれる人数は劇的に増えたのに、人間が安定的な信頼関係を保てる集団のサイズ、信頼できる仲間の数は150人規模のままということ。テクノロジーが発達して、見知らぬ大勢の人たちとつながれるようになった人間は、そのことに気づかず、AIを駆使すればどんどん集団規模は拡大できるという幻想に取り憑かれていて、こうした誤解や幻想が、意識のギャップや不安を生んでいるのではないかと。ぼくはそう考えています。そして、子どもたちの漠とした不安も、⑦このギャップからきているのではないのでしょうか。

問一 傍線部 a、d のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

問二 空欄 A、C に入れるのに最も適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号は使えないものとする。

ア 言い換えれば イ しかし ウ まず エ そして

問三 次の文章を入れるのに最も適当な箇所を本文【一】～【4】の中から一つ選び、数字で答えなさい。

2000 年前、脳が大きくなり始めた頃の集団サイズの推定値は 30 ～ 50 人程度。ちょうど先生一人でまとめられる一クラスの人数ですね。日常的に顔を合わせて暮らす仲間の数、誰かが何かを提案したら分裂せずにまとまって動ける集団の数です。

問四 傍線部①「集団の大きさ」とありますが、次のア～エについて、本文中での正しい説明であれば「○」を、誤った説明であれば「×」を、それぞれ解答欄に記しなさい。

ア 一人で狙われる確率が低く、防衛力が増すため、危険な場所では、集団の規模は大きいほうが有利である。

イ 森林ゾウとサバンナゾウでは、森林ゾウのほうが、身体も小さく、集団規模も小さいため、敵の発見効率が低い。

ウ 集団を大きくするとトラブルが増えるため、言葉を通じたコミュニケーションが重要となり、脳が大きくなった。

エ 集団を大きくすると、食物や安全な休息場所をめぐってトラブルが増え、その対処のために脳が大きくなった。

問五 空欄 D に当てはまる最も適切な四字熟語を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 天地無用 イ 海千山千 ウ 優柔不断 エ 喜怒哀楽

問六 傍線部②「四半世紀」は、何年のことですか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 25 年 イ 200 年 ウ 450 年 エ 1000 年

問七 傍線部③「このギャップ」とは、どのようなギャップですか。「150 人規模」「AI」という言葉を必ず用いて、解答欄に合うように、七十字以内で説明しなさい。(算用数字も一マスに一字とします)

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小学三年生の「太輔」は、両親が事故死したため、伯父夫婦に引き取られたがうまくいかず、結局児童養護施設に入ることになった。施設の同じ班で中学生の「佐緒里」になじめなかった太輔だが、ある事件をきっかけにして心を開き、生前の両親と一緒に行くはずだった「蛍祭り」で一緒に「願いとばし」のランタン（地域の各家庭には無料で一つ配られる）を飛ばす約束をした。

「ミホ、学校終わったらママとお祭り行くんだー！ 超楽しいー」そのままもうおうち帰りたいあい、と、美保子はちらりと太輔のことを見てから門を駆け抜けていった。八月八日、蛍祭りの日はちょうど登校日と重なっていた。夏休みといっても毎朝のラジオ体操があったから、起きる時間はいつもと変わらない。あれから、太輔は佐緒里とよく話すようになった。そうなること① ますます美保子が太輔にきつく当たったが、淳也や麻利とも、もともと話すようになった。

夏休みの間も施設での生活スケジュールはちゃんと決まっているけれど、やはり学校があるときよりは自由時間が多い。そのあいだ太輔は淳也や麻利と小学校のプール教室に行ったり、外出届を出して佐緒里とコンビニにアイスを買に行ったりした。そのたびに美保子がついてきて、しきりにミホのママね、ミホのママね、と、自分のお母さんとの話をしてきた。

八月一日には、散髪屋さんが施設まで来てくれた。毎月一度、こうして無料で施設の子どもの髪を切ってくれるらしい。美保子はずっと「前髪みじかすぎるよ」と佐緒里に泣きついてた。太輔もスポーツ刈りにしてもらって、かなりすっきりしたし、淳也の長い前髪もなくなって、やっとその目がはっきりと見えるようになった。それ以外にも淳也がやけにうきうきしているから聞いてみると、毎月一日はお小遣いがもらえるらしい。小学生は、三年生と四年生で額が変わる。「四年になったら、七百元ももらえるんやで」と、淳也は五百円玉を大切に握りしめた。

「佐緒里姉ちゃん」

また淳也と麻利が部屋の中にいることを確かめて、ゲンカンで靴を履いている佐緒里に太輔は話しかける。

「今日帰ってきたら、お祭りだよ」

今日、青葉中学校の生徒は、町の公民館で、エンゲキを鑑賞するという。中学校の登校日ってそうなんだよ、と佐緒里は言っていた。

「おれ、今月のお小遣い一円も使ってないから。行ったらまず、ランタン買おうよ」

「私も使ってないよ、ちゃんと今日のために取ってある」

楽しみなだね、と、佐緒里は制服のポケットから携帯を出した。

「私、三時に学校が終わって、四時くらいには帰れると思うから。暗くなる前に行こうね」

佐緒里は携帯電話を持っている。この施設の中では、中学生でも持っていないメンバーが多い。親戚の誰かが携帯代は払ってくれている、らしい。

グラウンドでは、蛍祭りに向けていろんな大人たちが屋台を立てたり食材を運んだりしている。クラスメイトの中には、ランドセルを持ってこないで、このまま家に帰らずに学校に残って祭りに参加するつもりの子もいる。みんな、ポケットに百円玉をたくさん入れていて、頬を紅潮させている。

登校日といっても、今日が提出日になっている読書感想文を出し、先生の話聞いて、【夏休み、これからの過ごし方】という注意事項が、イチランになったプリントをもらうだけだ。太輔の前の席の女子はこちらを振り向きもせず回してくる。淳也はわざと順番を飛ばされていた。施設に戻ったら自分のぶんを見せあげようと思う。

みんな、肌が黒い。何度か行った学校のプール教室だけで黒くなった淳也と太輔とは、違う。みんなは、海に行ったりバーベキューをしたりして、いろんなところの太陽を、アびて黒くなっている。

「お前ら祭り来んのか？」

昇降口で、クラスメイトに呼び止められた。太輔が先に振り返る。

「行くよ」太輔は施設のメンバーと話すようになってから、クラスメイトとも口をきけるようになっていた。

「へえ。何しに来るの？」

もう行こうや、と、淳也が太輔の給食袋を引っ張る。何か言いたげなクラスメイトを一秒だけ睨んで、ふたり並んで昇降口を出た。出てすぐのところに、麻利が立っている。「お兄ちゃん！」ほら、と、麻利が小さな紙切れを見せてくる。「先生がな、屋台の券くれた！お祭りのーわたあめタダやって、もらってから帰る！」そう言う、と麻利は、待って、と言いつつ、わたあめの屋台へと走っていった。帰る頃にはもうお祭りは始まっていて、町の人たちがちらほらと昼間の校庭にいるのは不思議な感じがした。

わたあめを片手にした麻利はいつもより大股で歩く。プリントをもらえなかった淳也に、明日の朝、ラジオ体操のあと町内清掃があると教えてあげる。「毎年、祭りの次の日に町内掃除なんや。一緒に行こうな」淳也の小さな声を聞き取りながら、もう完璧に覚えた通学路を、三人で歩く。

四時。佐緒里姉ちゃんと約束した。去年は、お母さんとお父さんと、約束した。約束は破つたらいけない。

ずっと使わなくておいた五百円玉が、迷彩柄の短パンのポケットで揺れている。施設に入ってからずっと着つけているTシャツで、鼻の汗を拭く。

（ー）と部屋のドアが開く音がしたと思ったら、美保子が泣きながら帰ってきた。

「……どうしたん」

淳也が聞いても、「何でもない」と答えただけで、美保子は自分のベッドにもぐりこんでしまった。ミホちゃん、と麻利が布団の中に入ろうとすると、「来ないでー」と美保子は大声を出した。

太輔は、美保子が開けっ放しにしたドアを覗む。もう、祭りも終わった。②午後六時を回ったあたりから、時計は見えていない。

佐緒里は約束の時間に帰ってこなかった。夕食を終えて部屋に戻ると、やがて窓の向こうで、空に飛んでいく無数のランタンが見えた。だからすぐにカーテンを閉めた。

太輔は自分の右手の小指を撫でる。

「佐緒里ちゃん、今日帰ってこんねえ」

麻利が漫画を読む淳也にちよっかいをかけている。

「そうやな。外出届でも出しとるんやない？」

でも、学校が終わったら帰ってくるって言ってた。太輔は部屋を出て、施設の入りに向かった。目線（2）のところに窓があつて、向こうに座っている職員の人と会話ができる。施設の子どもたちはここで外出届を書く。

「……あの」

③太輔は自分の小指を触ったまま言う。

「あら、どうしたの」

「佐緒里姉ちゃんって、外出届、出して？」

えーとねえ、とめがねをかけながら、中にいる人が（3）と紙をめくっている。

その手が止まった。

「出してるわね、昨日の夜のうちに。今日は朝から学校休んで、弟の病院に行ってたみたいよ。ほら、佐緒里ちゃんの弟、遠い病院にいるでしょう。ここから片道二時間はかかるから……でも、予定帰宅時刻はとうに過ぎてるわね、午後四時って書いてあるし」

「弟？」

④太輔の声は聞こえなかったみたいだ。「気づかなかったわ、どうしよう」と、すぐに視線を外されてしまう。

そのときだった。入り口のドアが開いて、見慣れた制服姿が太輔に影を落とした。

「太輔くん」

開けっ放しのドアから、生暖かい空気が流れ込んできた。佐緒里は（4）になった髪の毛を気にすることもなく、言った。

「太輔くんごめん、事故で電車が止まっちゃって、山奥だから携帯も通じなくて連絡できなくて」

太輔は何も言わずに佐緒里を見つめ続けた。

「嘘ついてごめんね太輔くん、今日私、ほんとは学校に行ってなかったの。ほんとはもっと遠いところに行つて、それで」

「家族、いるんじゃない」

息を切らす佐緒里の肩が上下に震えている。太輔は、ぐっと、握った拳に力を込めた。

「……淳也にだって、麻利ちゃんがいる。ミホちゃんにだって、お母さんがいる。佐緒里姉ちゃんにだって、弟がいるんじゃない」

使わなかった五百円玉の分だけ、右側のポケットが重い。ランタンは、ひとつ五百円。

「おれとじゃなくなつて、お祭り、行けるじゃん。願いごと、飛ばせる」

自分だけだ、ひとりばつちなのは。

「お母さんも、お父さんも、きょうだいもない」

また、自分だけ、ひとりばつちになる。

「おれだけ、おれだけ」

⑤太ももをぐっ、ぐっ、と何回もつねる。佐緒里の背後、遠くのほうで、あまのじゃくなランタンがひとつ、ふたつ、空へ飛んでいくのが見えた。

問一 二重傍線部a、dのカタカナを漢字に直しなさい。

問二 (一) (4) に入れるのに最も適當なことを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア ばさばさ イ ギリギリ ウ パラパラ エ バタン

問三 傍線部①「ますます」の品詞名を、次の中から選び記号で答えなさい。

ア 接続詞 イ 連体詞 ウ 形容動詞 エ 副詞

問四 傍線部②「午後六時を回ったあたりから、時計は見えていない。」とあるが、この時の「太輔」の気持ちを説明した次の文の空欄(A) (C)に入る適當な語句を答えなさい。

佐緒里との約束の時間が (A) 以上過ぎ、もう (B) には間に合わないという (C) の気持ち

問五 傍線部③「太輔は自分の小指を触ったまま言う。」とあるが、この時の太輔の気持ちとして適當でないものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア お祭りに一緒に行く約束をした佐緒里が時間になっても帰ってこなかったのを心配している。

イ お祭りに一緒に行く約束をした佐緒里が時間になっても帰ってこなかったのを心配している。

ウ お祭りに一緒に行く約束をした佐緒里が帰ってこなかったもので、一人で行けばよかったと後悔している。

エ お祭りに一緒に行く約束をした佐緒里と行きかけたのに、祭りが終わってしまったって残念に思っている。

問六 傍線部④「太輔の声は聞こえなかったみたいだ」を単語に分けた時の単語数を算用数字で答えなさい。

問七 傍線部⑤「太ももをぐっぐっ」と何回もつねる」とあるが、この時の太輔の気持ちを五十文字以内で説明しなさい。

問八 本文から「太輔」は「祭り」以外に二つのことにこだわっている様子がうかがえる。その二つを漢字二字でそれぞれ答えなさい。(順不同)

問九 次の会話は本文を読んだ生徒AからEの五人が登場人物について話し合っているところである。本文をふまえた発言として合致するものには○、合致しないものには×を解答欄に答えなさい。

生徒A「美保子は太輔のことを意識して、わざとお母さんの話をしているみたいだね。」

生徒B「麻利は明るく活発な感じで、おとなしい感じの淳也は麻利のお兄さんなんだね。」

生徒C「太輔はお祭りに行けなかったんだね。他の人と行けばよかったのに、自分から誘うのが恥ずかしかったんだね。」

生徒D「佐緒里は約束の時間に遅れた理由を、電車が停まって連絡ができなかったと嘘をついてしまったんだね。」

生徒E「太輔はお祭りにいけなかっただけでなく、佐緒里に弟がいたこともショックだったんだね。」

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

今は昔、一人の女有りけり。姓は藤原の氏なり。この女の本より心柔軟にして慈悲ありけり。常に極楽に心を懸けて、日夜に念仏を唱へて、怠ることなかりけり。

しかる間、やうやく年積りて老に臨みて、女、人に語りていはく、「我、年ごろ、『極楽に生れむ』と願ひて、昼夜に念仏を唱へつるに、今、遙かにめでたき音楽の音を聞く。これ往生すべき相か」と。人この事を聞きて、貴び思ふ間、その明くる年、またいはく、「去年聞きし音楽の音、今少し近づきになり。これ往生の期の近づく故か」と。また、その明くる年いはく、「前の音楽の音、年を追ひて近づく。就中に、近日、寢屋の上に聞ゆ。今、往生の時至れり」といひて、いよいよ念仏を唱へて怠る事なし。しかる間、女、身に病なく、苦しむ所なくして終り貴くして失せにけり。これを見聞く人、「この女、必ず極楽に往生しぬ」と知りて、悲しび貴びけり。

これを思ふに、往生すべき人は、兼ねてその相現する事なりけりとなむ語り伝へたとや。

注 ※1 柔軟：柔和で温情があること。 ※2 相：瑞相。前兆。前知らせ。

※3 就中に：とりわけて。特に。 ※4 兼ねて：先に。あらかじめ。前もって。

(『今昔物語集』より)

問一 二重傍線部a「やうやく」b「願ひて」c「思ふ」の読みを、全てひらがなの現代仮名遣いで答えなさい。

問二 傍線部A「心を懸けて」とありますが、何を心に懸けていたのですか。解答欄に合うように本文中から六字で抜き出して答えなさい。

問三 傍線部①「もとより」②「年ごろ」の意味を次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア 最近 イ 以前から ウ 長年 エ 昨日から オ 近頃 カ 去年から

問四 傍線部B「失せにけり」の現代語訳として最も適當なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 死んでしまった。

イ どこかへ行ってしまった。

ウ 嫁に行ってしまった。

エ 無くしてしまった。

問五 傍線部③「貴びけり」の内容として最も適當なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア その死に方が辛く、別れを惜しみ悲しむ気持ち。

イ その死に方の尊さに、いたく感動する気持ち。

ウ その死に方に世のはかなさを嘆く気持ち。

エ その死に方にうらやましさを感じる気持ち。

問六 女の耳に聞こえてくる音楽は年を経るにつれてどのように変化していますか。二十文字以内で答えなさい。

【四】 資料1は、ネットワーク上のコミュニケーション手段に関する説明文、資料2は、資料1の内容に一部補足をして表にまとめたものです。これらを読んで、後の問いに答えなさい。

資料1…ネットワーク上のコミュニケーション手段に関する説明文

もともと(①)は1対1の通信手段だが、デジタル情報はコピーが簡単にできるため、複数の相手に同じメッセージが届くようにして、1対多の通信も行える。(①)に続いて、場にメッセージを投稿し、多くの人がそのメッセージを読んで、反応を同じ場に追加する(②)が広まった。これは複数の人がそれぞれ複数宛にメッセージを投稿するので、多対多の通信である。

(①)や(②)のメッセージは、受け手の都合がよいときに読まれるので、非同期型の通信である。これに対し、その場で直接やりとりをするオンライン通話などは(③)の通信である。また、多人数宛に(③)の通信を行うサービスとして、音声や映像のライブ中継がある。

資料2…コミュニケーション手段の分類

	非同期型の通信	同期型の通信
1対1	電子メール(個人宛) 手紙	オンライン通話(1対1) 電話
1対多	電子メール(複数宛) 新聞・雑誌	ネットを使ったライブ中継 ラジオ・テレビ
多対多	電子掲示板 新聞投稿欄	オンラインミーティング 電話の複数人通話

問一 資料1の中の空欄①～③に入る言葉を、資料2から抜き出して答えなさい。

問二 資料2には、資料1にはないコミュニケーション手段のことも書かれています。このことにはどのような効果があるか、次の中から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア ネットを使ったコミュニケーション手段の例を追加することで、ネットを使ったコミュニケーションのことを詳しく説明する。

イ ネットを使わないコミュニケーション手段も例示し、コミュニケーション手段の分類の単位を読み手によりわかりやすく伝える。

ウ 読み手がよく使うコミュニケーション手段も例示することで、ネットを使ったコミュニケーション手段の問題点を示す。

エ 読み手がよく知らないコミュニケーション手段も例示することで、ネットを使ったコミュニケーション手段の良さを納得させる。

問三 由美子さんは、資料を読んで、注意しなければならないことがあると気づき、それらを文章にまとめました。次の文章の空欄に入る言葉を、それぞれ後から選び、記号で答えなさい。

電子メールは、すぐに送信が完了するため、同期型通信のように感じられますが、実は非同期型通信です。受け手は都合がよいときにメールを開いて読むため、(①)ようにしましょう。一方、同期型通信であるオンライン通話などは、相手を都合の悪いことに付き合わせて困らせてしまう可能性もありますから、(②)ようにしましょう。

- ア 多くの人にいつせいに同じ情報を伝えたいときに使う
- イ 相手からすぐに返信がない場合でも、気にしすぎたり相手を責めたりしない
- ウ お互いの都合がよいときや、急ぎの用事ですぐ回答が欲しいときなどに利用する
- エ 相手からすぐに返信がない場合は、返信を催促するメッセージを何回も送る

【五】 次の傍線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなにそれぞれ書き直しなさい。

- ① 党の**ブンレツ**は必至の情勢だ。 ② 法案の**シンギ**が空転する。 ③ 海で**センスイ**作業をする。
- ④ 酒の飲みすぎは身を**ホロ**ぼす。 ⑤ 新しい先生が**フィン**して来た。 ⑥ 国際大会でドウホウが活躍する。
- ⑦ シュショウにも率先して掃除する。 ⑧ ナポレオンは**コウテイ**になった。 ⑨ 依頼人の要望を**ショウダク**する。
- ⑩ ココウに生きる人物を描いた物語。 ⑪ ウイルスの侵入を**阻止**する。 ⑫ 産婆さん**を**呼ぶ。
- ⑬ 歓迎を受けて**ご満悦**だ。 ⑭ 他の**追隨**を許さない。 ⑮ 花嫁衣装を身に**着**ける。